

## (5) がん診療施設情報ネットワークからの展望

塚 田 勝

### A PROPOSAL FROM THE CANCER INFORMATION NETWORK

Masaru TSUKADA

今回は、がん診療施設情報ネットワーク（以下：がんネット）を利用した多地点テレビカンファレンス（以下：テレビ会議）の紹介を中心に政策医療推進への活用，そして診療放射線技師が求める情報について述べる。がんネットは、がん克服新10ヵ年戦略の1つとして平成6年度に国立がんセンター中央・東病院および、4つの国立地方がんセンター（国立札幌病院，国立病院四国がんセンター，国立呉病院，国立病院九州がんセンター）に導入された。さらに平成7年の愛知県がんセンターをはじめ平成11年までに宮城県立がんセンター，青森県立中央病院，茨城県立中央病院，千葉県がんセンター，岩手県立中央病院，新潟県立がんセンター新潟病院，埼玉県立がんセンターが参加し，平成13年に大阪府立成人病センターが加わり現在15施設が参加している。その目的は「全国のがん専門施設間で，がんに関する最新の情報交換を行うことにより，わが国のがん診療レベルの向上を目指す」ことにある。

#### がんネットのネットワーク接続形態

がんネットは物理的に1本のネットワークを接続しているのではなく，フレームリレー専用回線とISDNを利用して（図1）。フレームリレー専用回線はシステム全体の制御情報をやり取りし，発表者による資料のページめくりやポインタ・マーキングの表示に使用される。また，回線は24時間接続されインターネット接続もこの回線を使用している。ISDN回線は使用時のみ接続し，参加者の映像や音声を送っている（図2）。

発表時は演者から聴衆への一方通行であるが，発表後の他施設も含む質疑応答は1つの会場にいるような雰囲気で行われる。

#### テレビ会議の実施内容

主な実施内容を表1に示した。特に医局主催のメディカルカンファレンスについてはインターネット上で公開

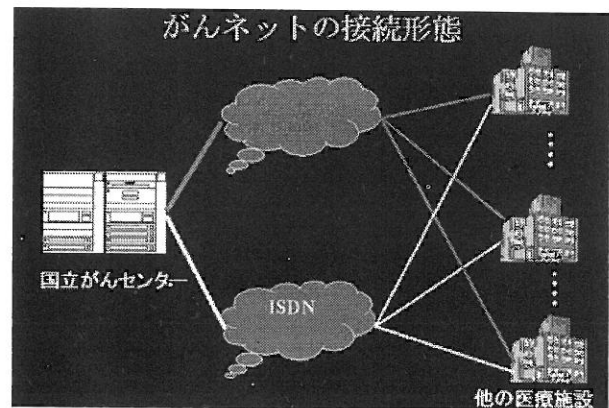


図1 がんネット接続形態

#### テレビ会議時の回線仕様

- ・フレームリレー(128kbps又は64kbps)
  - 常時接続 ————
  - ・システム全体の制御
    - ・資料のページめくり
    - ・ポインタ・マーキング
    - ・インターネット
- ・ISDN(INS1500又は64:384kbps)
  - 使用時のみ接続 ————
  - 参加者の映像と音声

図2 回線仕様と役割

国立がんセンター中央病院 National Cancer Center Hospital 放射線診断部

Address for reprints: Masaru Tsukada, Department of Radiology, National Cancer Center Hospital, 5-1-1, Tsukiji, Chuo-ku, Tokyo 104-0045 JAPAN

Received March 4, 2003

Accepted July 18, 2003

表 1 テレビ会議の実施内容

医局主催	
・メディカルカンファレンス	1回/週
・サマーセミナー	1回/年(8月)
・臨床腫瘍検討会	1回/週
・テレイメージカンファレンス	1回/月
・病理カンファレンス	1回/3ヵ月
・整形外科カンファレンス	1回/3ヵ月
・腫瘍学総論講義	1回/年(6月)
(新規採用レジデント対象 4日間)	
看護部主催	1回/4ヵ月
薬剤部主催	1回/4ヵ月
放射線部主催	1回/4ヵ月
臨床検査部主催	1回/4ヵ月

している。(http://www.info.ncc.go.jp 日本語ページ/がんに関する情報/医療従事者向けがん情報/カンファレンスのビデオ公開)。

放射線部主催のテレビ会議は「診療放射線技師のための多地点合同メディカルカンファレンス」と称し、平成6年11月に第1回が開催され、その後年3回のペースで行われ平成14年9月20日に第19回、延べ参加人数も約3,100人となった。その他の利用として学会・シンポジウム開催や厚生労働省がん助成金シンポジウム等が行われた実績がある。

#### 今後の課題

政策医療推進のためにITネットワークを利用するには、さらに対象者を拡大し、診療に直接関与した経済効果を生むシステムとして構築しなければならない。

(1) 対象の拡大：がんネットは、がん診療の向上目指し、医療従事者の教育を主目的としている。参加自由の会議を通して職種全体の連携、つまりチーム医療構築にも利用していく必要がある。また、医療従事者のみでなく一般市民を対象にした公開多地点テレビカンファレンスの開催も効果的と考える。患者様が病院を選ぶ時代となり、信頼のおける情報提供を望んでいる。情報発信も重要な役割であり、このような企画が政策医療により各施設が

結ばれていると国民にアピールする。

(2) 診療に直接関与：政策医療施設間での連携診療さらには近隣施設との連携に結び付けていく必要がある。

(3) 経済性：システムの導入や運営にはコストが発生する。将来性も考慮しながら施設に合った機能を検討する必要がある。また、病院経営や安全対策に有効な情報が得られるソフトの開発も重要である。

#### 診療放射線技師として共有したいデータ

(1) 被ばく線量の把握：患者様の放射線防護は線量を数値とした被ばく管理が中心となる。したがって、その情報を記録に残すことが重要となる。

(2) 機器の保守管理：放射線部門には高額医療機器が非常に多い。多施設の装置維持費やダウンタイム等が組織的に集まれば、より正確な情報となり機器購入時や整備計画に有効な資料となる。

(3) 検査の標準化：データの標準化がITのキーポイントである。放射線部門システムが稼動している施設間においても検査の名称と手技が統一されていない。共通のコード化までなされなければ今後の発展はない。

#### まとめ

(1) 政策医療ネットワークの推進には情報ネットワークは必須ツールであり、すべての施設が結ばれることにより大きな威力を発揮する。

(2) 放射線部門は共有化された情報が非常に少なく早急に拡大していく必要がある。

(3) IT化により創造される付加価値に対し正当な評価が得られるためには、われわれも相当努力しなければならない。

最後に今回の発表にあたりご指導を頂いた当院福島診療放射線技師長並びに若尾医長にこの場をお借りしてお礼を申し上げます。

(平成15年3月4日受付)

(平成15年7月18日受理)